

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 教育相談と幼児理解 ナンバリング：2401	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：原口政明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 幼児理解の理論及び方法		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <テーマ> 幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものであり、幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。そして、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 <到達目標> 1. 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解できる。 2. 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解できる。 3. 学校における教育相談の意義と課題を理解できる。 4. 幼児の不応答や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を理解できる。			
<b>授業の概要</b> 幼稚園等における教育相談についての理論や実践的な体系について学び、子どもの発達や幼児期から思春期までの発達を見通した視点からの教育相談を進められるよう、幼児期の問題や課題などの事例を交えながら学んでいく。			
<b>授業計画</b> 第1回：保育者の行う教育相談の考え方 第2回：学校教育相談実践の歴史の変遷 第3回：相談実践の整理とその意義 第4回：隣接する学問や実践現場から学ぶ 第5回：日本における学校教育相談の実践整理 第6回：教育相談の進め方（1）教育相談実践の捉え方 第7回：教育相談の進め方（2）観察方法 第8回：教育相談の進め方（3）面接への視点 第9回：幼稚園における教育相談の考え方 第10回：幼児理解のために（1）子どもの発達 第11回：幼児理解のために（2）幼児期の問題・課題 第12回：実践例（1）保護者との信頼関係 第13回：実践例（2）保護者の養育力の向上 第14回：実践例（3）幼小連携の観点から考える 第15回：実践例（4）外部専門機関との連携 定期試験：筆記		<b>授業時間外の学習</b> （予習・復習：1時間程度）  ・図書館などを活用して、授業準備や調べ学習を行うこと。 ・教育相談に関する歴史的背景や変遷、カウンセリングに関する書籍等を読んでおく。 ・事前・事後学習で学んだことを必ずまとめておく。 ・授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。	
<b>授業の方法</b> 講義、ディスカッション。授業終了時に行う振り返り用紙にコメントを入れ返却する。			
<b>テキスト</b> 『教師のための学校カウンセリング』小林正幸・橋本創一・松尾直博編著 有斐閣アルマ			
<b>参考書・参考資料等</b> 『幼稚園教育要領解説』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（最新版）、『保育所保育指針および同解説』（最新版）			
<b>学生に対する評価</b> 授業参画度（30%）、課題（30%）、定期試験（40%）を考慮し評価を行う。 毎回授業「まとめと振り返り」を活用し、ルーブリック評価を行う。			
<b>履修上の注意</b> 子どもの発達や成長を理解できるよう様々な文献等を活用し、事前・事後学習を行うこと。			
実務経験の有無	有	実務経験	元中学校理科教諭・校長、元指導主事、幼保巡回相談・教育相談、公認心理師
<b>実務経験を活かした教育内容</b> 幼児や保護者への相談経験を活かし、具体的な事例を基に授業をする。			